取扱説明書

VHF 無線電話装置

IC-VH37CTM
IC-VH37MFT

UHF 無線電話装置

IC-UH37CTM
IC-UH37MFT

この無線機を使用するためには、総務省の無線局の免許が必要です。
免許を受けずに使用すると、電波法第110条の規定により処罰されます。

Icom Inc.

はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、ありがとうございます。

本製品は電波法に基づいて、技術基準適合証明(工事設計認証)を受けた国内業務用無線電話装置です。

ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、大切に保管してください。

付属品について

充電器(☞P27～P31)は、別売品です。

◎ アンテナ …… 1
◎ ハンドストラップ …… 1
◎ 取扱説明書(本書)、保証書

登録商標/著作権について

アイコム株式会社、アイコム、 Icom Inc.、アイコムロゴ、ポケットビープは、アイコム株式会社の登録商標です。
その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標および登録商標です。
本製品のフォントは、モリサワのフォントを採用しております。

本製品の概要について

◎ 本製品は、電波法に基づいて、技術基準適合証明(工事設計認証)を受けた製品です。

◎ IP57(防塵形★1.と防浸形★2.)相当の性能に対応できるように設計されています。(バッテリーパック、アンテナ装着時に限る)

★1.バッテリーパックを正しく装着した状態で、タルク粉を1m^{3}あたり2kgの割合で浮遊させた中に8時間放置したのちに取り出して、無線機として機能することです。

★2.バッテリーパックを正しく装着した状態で水深1mの静水(常温の水道水)に静かに沈め、30分間放置したのちに取り出して、無線機として機能することです。

◎ 本機は、携帯用として設計されたプレストーク方式の複数波(35チャンネル)業務用無線電話装置です。

簡易業務用として、
IC-VH37CTMは、9チャンネルに対応します。
IC-UH37CTMは、35チャンネルに対応します。
一般業務用として、
IC-VH37MFT/IC-UH37MFTは、35チャンネルに対応します。

◎ チャンネル番号の代わりとして、漢字、英数字、記号、外字を使用した半角8(全角4)文字で表示できます。

◎ 緊急呼び出し機能に対応しています。

使用後はリサイクルへ

この製品は、充電式電池使用機器です。
希少な金属を再利用し、地球環境を維持するために、不要になった電池は廃棄せず、充電式電池リサイクル協力店へご持参ください。

はじめに

防塵/防水性能について

アンテナとバッテリーパックを無線機本体に装着することで、IP57相当の防塵/防水性能があります。
次のような使いかたをすると、防塵/防水性能を保証できませんので、ご注意ください。

- 水深1m以上、または30分以上水中に放置したとき
- 雨の中や、水滴が付着、またはぬれた手でバッテリーパックやアンテナ、防水形スピーカーマイクを付けたり、はずしたりしたとき
- 海水や砂、泥、洗浄液（洗剤）等が無線機に付着したまま放置したとき
- 落下等外的衝撃により、樹脂変形、ひずみ、ひび割れ等が発生した場合や薬品の付着により筐体、ゴムパッキンに劣化が生じたとき
- 長時間、高い水圧をかけたとき
- 蛇口からの水や湯を直接当てたとき
- 「別売品の防水性能について」に指定の別売品以外を使用したとき
- 無線機本体とバッテリーパック端子間の腐食による故障、または損傷
- 使用温度範囲外で使用したとき
- 薬品等の蒸気が発散しているところや薬品に触れるところに放置したとき
- 本製品を分解または改造したとき
- 無線機本体とバッテリーパック、アンテナ、別売品を接続するコネクター間に微細なゴミ（糸くず、毛髪、砂など）が挟まっているとき

海水が付着したときは？

海水が無線機に付着したときは、真水で洗い流してください。
このとき、バッテリーパックは、無線機本体から絶対にはずさないでください。
洗い流したあとは、水分をふき取り、十分に乾燥させてからご使用ください。

別売品の防水性能について

バッテリーパック(BP-220N/BP-246/BP-274)、防水形スピーカーマイク(HM-159SJ/HM-172/HM-183SJ)、短縮アンテナ(FA-S73U)を無線機本体に装着することで、IP57相当の性能になります。

※ 接話タイピン型マイクロホン(HM-163)のコネクター部はIPX7相当の防水性能がありますが、マイクロホン部はIPX7ではありません。

※ 上記以外の別売品(☞9章)については、防水構造になっていませんので、ご注意ください。

自動車運転時のご注意

◎ 安全運転のため、運転中に無線機を操作したり、無線機の表示部を注視(表示部を見つづける行為)したりしないでください。
無線機を操作、または表示部を注視する場合は、必ず安全な場所に自動車を停車させてください。

◎ 安全運転に必要な外部の音が聞こえない状態で自動車を運転しないでください。
一部の都道府県では、走行中にイヤホンやヘッドホンなどを使用することが規制されています。

◎ 本製品をハイブリッドカーでご使用になる場合、ハイブリッドカーに搭載されているインバーターからのノイズの影響を受けて、正常に受信できないことがあります。

◎ 安全運転のため、無線機を身体に付けた状態で運転しないでください。

はじめに

取り扱い上のご注意

◎ アンテナを持って本製品を持ち運んだり、振り回したりしないでください。

◎ 本製品を極端に寒い場所から持ち運んだ場合は、結露する可能性があります。
結露した場合は、自然乾燥させるか、長いあいだ同じ環境に置くなどして、結露がなくなってからご使用ください。

◎ 雨の中や、水滴が付着、またはぬれた手のままでバッテリーパックや防水形スピーカーマイク、アンテナを付けたり、はずしたりしないでください。

◎ 蛇口からの水や湯を直接当てないでください。

◎ 無線機本体やバッテリーパックと充電器の各端子(充電端子および電源ジャック)、アルカリ電池ケースの電池端子にゴミやホコリが付着すると、正常に使用できないことがありますので、定期的にお手入れしてください。

◎ 磁気カードを無線機に近づけないでください。
磁気カードの内容が消去されることがあります。

◎ バッテリーパックをお買い上げいただいたときや、2ヵ月以上充電しなかったときは、必ず充電してください。

◎ 本製品の故障、誤動作、不具合、停電などの外部要因により通信、通話などの機会を失ったために生じる損害や逸失利益、または第三者からのいかなる請求についても当社は一切その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

電波法上のご注意

◎ 本製品は、電波法に基づいて、技術基準適合証明(工事設計認証)を受けた製品です。
ご自分で分解や改造をしないでください。
◎ 免許状に記載されている範囲内で通信してください。
◎ 他局の通信の妨害、および通話の内容をほかにもらし、これを窃用することは、かたく禁じられています。
◎ 免許の有効期限は、免許取得日から数えて5年間です。
再免許の申請は、免許の切れる6ヵ月前から3ヵ月前のあいだに手続きをしてください。
◎ 使用できるのは、日本国内に限られています。

取扱説明書の内容について

本書に記載の操作や機能は、お買い上げの販売店であらかじめ設定をご依頼いただくことにより使用できる機能も含まれています。

一般的なご使用を想定した内容にしていますので、ご使用になる機能や操作について詳しくは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

もくじ

はじめに ―――――――――――――――――――― i
安全上のご注意 ―――――――――――――――――― x
■ 無線機本体について …… xi
■ バッテリーパックについて …… xiii
■ 充電器について(別売品) …… xvii

1.ご使用前の準備 ―――――― 1
■ 付属品の取り付け …… 1
■ ベルトクリップの取り付け(別売品) …… 1
■ バッテリーパックの取り付け(別売品) …… 2

2.各部の名称と機能 ―――――― 3
■ 前面部 …… 3
■ 表示部 …… 5

3.交信のしかた ―――――― 6
1 電源を入れる …… 6
2 音量を調整する …… 6
3 相手局を選択する …… 7
Step1.通話チャンネル番号の選択 …… 7
Step2.「全体」/「基地局番号」/「個別番号」表示の選択 … 9
Step3.[個別番号]の選択 …… 10
4 呼び出しをする …… 11
■ アンサーバック機能 …… 11
5 呼び出しを受ける …… 12
■ ポケットビープ …… 12
■ 着信表示 …… 12
6 交信する …… 13
■ 正しい通話方法 …… 13
■ 交信時のアドバイス …… 14

4.そのほかの機能について ――――― 15

■ ロック機能 …… 15
■ 緊急呼び出し機能(エマージェンシー) …… 15

5.セットモードについて ――――― 17

■ [セットモード]に移行するには …… 17
■ 設定項目[❶〜❺]について …… 18

6.別売品とその使いかた ――――― 20

■ 別売品についてのご注意 …… 20
■ 別売品一覧表 …… 20
■ アルカリ電池ケース使用時の運用時間(別売品) …… 23
■ 安全な充電のために …… 24
■ バッテリーパックの名称と定格について(別売品) … 24
■ 電池の残量表示について …… 25
■ 電池の残量警告音について …… 25
■ 正しい充電のために …… 26
■ BC-121NA(6連急速充電器):充電のしかた…… 27
■ BC-161 #02(卓上急速充電器):充電のしかた …… 28
■ BC-161 #02の連結充電について…… 29
■ BC-161 #02の定格について(別売品) …… 30
■ BC-161 #02のヒューズ交換について …… 31
■ 別売品を接続するには …… 31
■ AD-52(イヤホンジャックアダプター) …… 32
■ HM-109/HM-163(接話タイピン型マイクロホン) … 32
■ OPC-636/OPC-637(マイクスイッチ内蔵型
接続ケーブル) …… 33
■ HS-86/HS-92(ヘルメット取り付け型ヘッドセット)と
EH-11(イヤーパッド型スピーカー)の組み立て …… 34

もくじ

6.別売品とその使いかた(つづき)

■ MB-86(回転式ベルトクリップ) …… 35
■ MB-97(ベルトクリップ) …… 37

7.保守について ―――――――― 38

■ 日常の保守と点検について …… 38
■ 故障かな？と思ったら …… 39
■ アフターサービスについて …… 41

安全にお使いいただくために、
ご使用の前に、必ずお読みください。

◎ **使用者および周囲の人への危害や財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全に正しくお使いいただくために、守っていただきたい注意事項を示しています。**
◎ **次の『⚠危険』『⚠警告』『⚠注意』の内容をよく理解してから本文をお読みください。**
◎ **お読みになったあとは、いつでも読める場所へ大切に保管してください。**

⚠ **危険**	これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。
⚠ **警告**	これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。
⚠ **注意**	これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

【免責事項について】

お客様または第三者が、取扱説明書記載の使用方法とは異なる使用方法で本製品を使用したことにより生じた故障、ならびに本製品の違法な使用により生じた故障につきましては、当社は一切責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
本製品の使用により本製品以外に生じた損害につきましては、法令上の賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

安全上のご注意

■ 無線機本体について

⚠危険

引火性ガスの発生する場所では、絶対に使用しないでください。
引火、火災、爆発の原因になります。

⚠警告

◎ **民間航空機内、空港敷地内、新幹線車両内、これらの関連施設周辺では絶対に使用しないでください。**
交通の安全や無線局の運用などに支障をきたす原因になります。
運用が必要な場合は、使用する区域の管理者から許可が得られるまで電源を入れないでください。

◎ **電子機器の近く（特に医療機器のある病院内）では絶対に使用しないでください。**
電波障害により電子機器が誤動作、故障する原因になりますので、電源を切ってください。

◎ **製品の分解や改造は、絶対にしないでください。**
また、ご自分で修理しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。

◎ **アンテナを接続しないで送信したり、送信しながらアンテナを接続したりしないでください。**
感電、故障の原因になります。

◎ **アンテナやショルダーストラップを持って、本製品を振り回したり、投げたりしないでください。**
本人や他人に当たって、けがや故障、破損の原因になります。

◎ **大きな音量でヘッドホンやイヤホンなどを使用しないでください。**
大きな音を連続して聞くと、耳に障害を与える原因になります。

⚠警告（つづき）

◎ **万一、煙が出ている、変なにおいがするなどの異常がある場合は、使用しないでください。**
そのまま使用すると、火災、感電、故障の原因になります。
すぐに電源を切り、煙が出なくなるのを確認してからお買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

⚠注意

◎ **インバーター内蔵の電子機器やLED照明器具の周辺で使用しないでください。**
電波障害を与えたり、受けたりする原因になることがあります。

◎ **アンテナを折り曲げたり、ねじったりしないでください。**
変形や破損の原因になることがあります。

◎ **針金などの細い棒で、マイクロホン部やスピーカー部の穴に触れないでください。**
故障の原因になることがあります。

◎ **無線機をぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所に置かないでください。**
落ちたり、倒れたりして火災、けが、故障の原因となることがあります。

◎ **直射日光の当たる場所やヒーター、クーラーの吹き出し口など、温度変化の激しい場所に置かないでください。**
変形、変色、火災、故障の原因になることがあります。

◎ **指定以外の別売品を使用しないでください。**
故障の原因になることがあります。

◎ **テレビやラジオの近くで送信しないでください。**
電波障害を与えたり、受けたりする原因になることがあります。

安全上のご注意

■ 無線機本体について（つづき）

⚠注意（つづき）

◎ **−20℃〜+60℃★以外の環境では使用しないでください。**
★BP-246（別売品）をご使用の場合は、−10℃〜+60℃
使用温度範囲外でのご使用は、故障の原因になることがあります。

◎ **清掃するときは、洗剤や有機溶剤（シンナーやベンジンなど）を絶対に使用しないでください。**
ケースが変質したり、塗装がはがれたりする原因になることがあります。
ふだんは乾いたやわらかい布でふき、汚れのひどいときは、水を含ませたやわらかい布をかたく絞ってふいてください。

■ バッテリーパックについて

⚠危険

◎ **コンクリートなどのかたい床に落としたりするなど、強い衝撃を与えたり、投げ付けたりしないでください。**
外観上、ひび割れや破損がない場合でも、内部で破損している場合があり、その状態で使用をつづけると、破裂、発火や火災、発熱や発煙の原因になります。

◎ **火やストーブのそば、車内や炎天下など、高温になる場所での使用、充電、放置はしないでください。**
バッテリーパックの性能や寿命が低下、保護装置が動作して充電できなくなったり、保護装置が破損したりして、破裂、発煙、発火や火災、液もれ、やけどの原因になります。

◎ **火の中に投入したり、加熱したりしないでください。**
バッテリーパック内部のガスに引火して、破裂や火災などの原因になります。

⚠危険（つづき）

◎ **下記の事項を守らないと、破裂、発火や火災、発熱や発煙、液もれ、感電、やけどの原因になります。**

- バッテリーパックの端子にハンダ付けをしないでください。
- バッテリーパックの端子間を針金などの金属類で接続しないでください。
- ネックレスなどの金属類や導電性のあるものをバッテリーパックの上に放置したり、バッテリーパックといっしょに持ち運んだりしないでください。
- バッテリーパックは、単体で水や海水につけたり、ぬらしたりしないでください。
- 弊社指定の充電器での充電、および無線機の使用について厳しい検査をしていますので、弊社指定以外の無線機や充電器、およびそれ以外の用途には使用しないでください。
- バッテリーパックからもれ出した液が目に入ったときは、こすらないでください。
  失明のおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流したあと、ただちに医師の治療を受けてください。
- バッテリーパックは、分解や改造をしないでください。

バッテリーパック（BP-220N/BP-246/BP-274）を使用の際に、異常と思われたときは、使用しないでお買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

■ バッテリーパックについて（つづき）

⚠警告

◎ **使用中や充電中、または保管中に、いつもより発熱するなど異常と感じたときは、使用を中止してください。**
使用をつづけると、バッテリーパックの破裂、発熱、液もれ、故障の原因になります。

◎ **赤ちゃんや小さなお子さまの手が届かない場所で使用、保管してください。**
感電やけがの原因になります。

◎ **電子レンジや高圧釜などに入れたり、電磁調理器の上に置いたりしないでください。**
破裂、発火や火災、発熱や発煙の原因になります。

◎ **指定の充電時間以上、充電しないでください。**
満充電後、すぐに再充電を繰り返すと、過充電になり、バッテリーパックの破裂、発熱、液もれの原因になります。

◎ **指定の充電時間を経過しても充電を完了しないときは、ただちに充電を中止してください。**
破裂、発火や火災、発熱や発煙の原因になります。

◎ **バッテリーパックからもれ出した液が皮膚や衣服に付着したときは、放置しないでください。**
皮膚に障害を与えるおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。

◎ **バッテリーパックは、ぬれた状態で弊社指定の無線機や充電器に装着しないでください。**
無線機や充電器の電源端子接点部に水や海水が付着して、故障の原因になります。

◎ **テープを巻きつけたり、加工したりしないでください。**
バッテリーパック内部からガスが発生することがあり、破裂、発熱、液もれの原因になります。

⚠注意

◎ **下記の事項を守らないと、破裂、発熱、液もれ、サビ、性能や寿命の低下の原因になることがあります。**

- バッテリーパックを満充電にした状態、または完全に使い切った状態で長期間放置しないでください。
  長期間バッテリーパックを保管する場合は、満充電のあと、バッテリー残量が を表示するまで使用して、無線機から取りはずした状態で保管してください。
- 以下の温度範囲以外の環境で充電しないでください。
  BC-161 #02(卓上急速充電器):0～40℃
  BC-121NA(6連急速充電器) :10～40℃
- 以下の温度範囲以外の環境で使用しないでください。
  BP-220N/BP-274 :−20～+60℃
  BP-246 :−10～+60℃
- 寒い戸外や冷えたままで充電しないでください。
- 無線機を使用しないときは、必ず電源を切ってください。
- 長期間使用しないときは、バッテリーパックを無線機から取りはずし、下記の温度範囲で湿気の少ない場所に保管してください。
  約1ヵ月:−20～+40℃
  約3ヵ月:−20～+35℃
  約1年 :−20～+25℃

◎ **清掃するときは、洗剤や有機溶剤(シンナーやベンジンなど)を絶対に使用しないでください。**
ケースが変質したり、塗装がはがれたりする原因になることがあります。
乾いたやわらかい布でふいてください。

安全上のご注意

■ 充電器について（別売品）

⚠危険

◎ 下記の事項を守らないと、破裂、発火や火災、発熱、液もれ、感電、けが、故障の原因になります。

- 充電器（BC-161 #02/BC-121NA）には、弊社指定以外のACアダプターを使用しないでください。
- 弊社指定以外のバッテリーパックを充電しないでください。
  BP-220N、BP-246、BP-274専用の充電器です。
- 分解や改造をしないでください。
  また、ご自分で修理しないでください。

⚠警告

◎ 下記の事項を守らないと、火災、発熱、感電、けが、故障の原因になります。

- 赤ちゃんや小さなお子さまの手が届かない場所で使用、保管してください。
- BC-161 #02（卓上急速充電器）は、5台以上連結して充電しないでください。
  連結して充電できるのは、最大4台までです。
- 充電器に水を入れたり、ぬらしたりしないでください。
  また、水にぬれたときは、使用しないでください。
- ぬれた手で電源プラグや機器に絶対に触れないでください。
- 電源ケーブルや接続ケーブルの上に乗ったり、重いものを載せたりしないでください。
- 電源ケーブルや接続ケーブルを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。
- 充電器の充電端子接点部に金属類を差し込まないでください。
- 電源ケーブルや接続ケーブルに傷がある、またはACコンセントの差し込みがゆるいときは、使用しないでください。

⚠警告(つづき)

- 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用しないでください。
  すぐにACコンセントから電源ケーブルを抜き、煙が出なくなるのを確認してからお買い上げ販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

⚠注意

◎ **下記の事項を守らないと、火災、液もれ、発熱、感電、故障の原因になることがあります。**

- 以下の温度範囲以外の環境で充電しないでください。
  BC-161 #02(卓上急速充電器):0～40℃
  BC-121NA(6連急速充電器) :10～40℃
- 充電が完了したバッテリーパックを再充電しないでください。
- 湿気やホコリの多い場所、風通しの悪い場所に置かないでください。
- 電源ケーブルを抜き差しするときは、電源ケーブルを引っ張らないでください。
- 充電後や充電しないときは、ACコンセントから電源ケーブルを抜いてください。

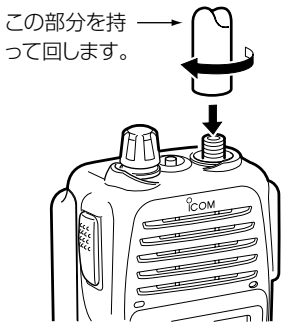
◎ **直射日光の当たる場所やヒーター、クーラーの吹き出し口など、温度変化の激しい場所には設置しないでください。**
充電器の火災、故障、変形、変色、またはバッテリーパックの破裂、発熱、液もれの原因になることがあります。

◎ **清掃するときは、洗剤や有機溶剤(シンナーやベンジンなど)を絶対に使用しないでください。**
ケースが変質したり、塗装がはがれたりする原因になることがあります。
ふだんは乾いたやわらかい布でふき、汚れのひどいときは、水を含ませたやわらかい布をかたく絞ってふいてください。

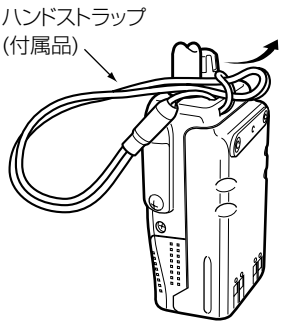
1 ご使用前の準備

■ 付属品の取り付け

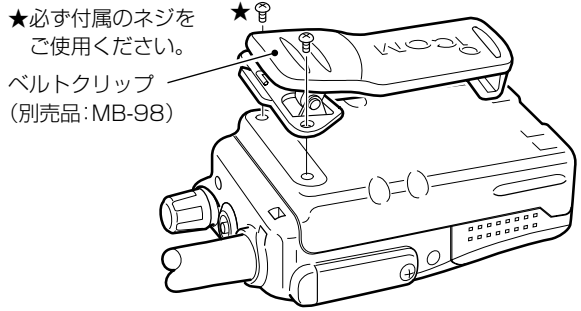
【アンテナ】



【ハンドストラップ】



■ ベルトクリップの取り付け(別売品)



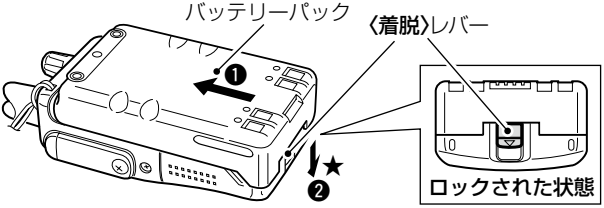
※ ネジの長さは、ベルトクリップの種類(☞P23)によって異なります。
取り付けるときは、ベルトクリップに付属するネジ以外は絶対に使用しないでください。

■ バッテリーパックの取り付け(別売品)

バッテリーパックを本体に密着させながら、[❶]の方向にスライドさせます。なお、本製品には、バッテリーパックとの接点部に防水用パッキンを取り付けています。
そのため、バッテリーパックを取り付けるときには、**「カチッ」**と音が鳴ってから、さらに[❶]の方向に押し込んでください。

※ 取り付けたとき、バッテリーパックが無線機底面にある**〈着脱〉**レバーでロックされていることを確認します。

★ 取りはずすときは、**〈着脱〉**レバーを[❷]の方向に押し下げるとロックがはずれます。



⚠警告

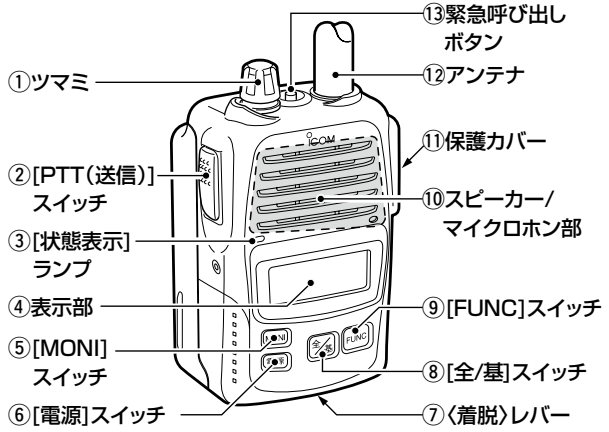
本製品やバッテリーパックがぬれたり汚れたりした状態で、充電しないでください。
本製品やバッテリーパック、または充電器の各端子がサビるなどして、故障の原因になります。
※充電方法については、6章(☞P27～P28)をご覧ください。

⚠注意

次のことを守らないと、指や爪をいためるおそれがあります。
バッテリーパックを取りはずすとき、**〈着脱〉**レバーの操作は、バッテリーパックを[❶]の方向に軽く押し込んで、**〈着脱〉**レバーが軽く動く状態になってから、[❷]の方向に押し下げてください。

2 各部の名称と機能

■ 前面部



① ツマミ
ツマミを回すと、音量(00～32)が調整できます。
※個別呼び出し機能が設定されている場合は、**[FUNC]**スイッチや**[全/基]**スイッチ操作して表示された内容がツマミで切り替わります。
(☞P7～P10)

② [PTT(送信)]スイッチ
押すと送信状態、はなすと受信状態に切り替わります。

③ 状態表示ランプ
交信の状態を示します。
- ●送信:赤色(点灯)
- ●受信:緑色(点灯)
- ●着信:橙色(点滅)

[電源]スイッチ、**[PTT(送信)]**スイッチ、**〈緊急呼び出し〉**ボタン以外の操作をしたとき、表示部の照明が約5秒点灯します。

④ **表示部**(☞P5)
運用状態を表示します。

⑤ **[MONI]スイッチ**
モニター機能が設定されている場合、押すごとに、「ON」/「OFF」できます。
※通常は使用しませんが、他局が呼び出し機能で交信するのを受信したり、交信相手局の信号が弱かったり、途切れたりして聞こえにくいときや、ノイズを聞きながら音量調整するときは、「ON」にします。

⑥ **[電源]スイッチ**
長く押すごとに、電源を「ON」/「OFF」できます。

⑦ **〈着脱〉レバー**
バッテリーパック(別売品)の取り付けや取りはずしをします。

⑧ **[全/基]スイッチ**
押すごとに、[全体]→[基地]→[個別]の順番に呼び出せる局を切り替えます。
※呼び出し機能が設定されていない場合やデジタルトーンスケルチが設定されている場合は、スイッチ操作は無効になります。

⑨ **[FUNC]スイッチ**
短く押すごとに、[通話チャンネル番号]→[個別(相手局)番号]★→[音量]の順番に表示が切り替わります。
※長く押すごとに、**ロック機能を「ON」/「OFF」**できます。
★個別呼び出し機能が設定されていない場合、[個別(相手局)番号]は、表示しません。

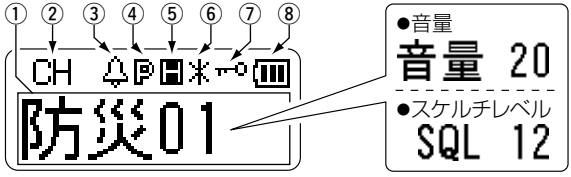
⑩ **スピーカー/マイクロホン部**
超小型のスピーカーとマイクロホンを内蔵しています。
別売品のスピーカーマイクやヘッドセットなどを接続するときは、機能しません。

⑪ **保護カバー**
別売品のスピーカーマイクやヘッドセットなどを接続するコネクターを保護します。
保護カバー(☞P31)をはずすと、接続できます。

⑫ **アンテナ**
電波を発射、または受信する部分です。

⑬ **〈緊急呼び出し〉ボタン**
緊急呼び出し(☞P15)をします。

■ 表示部



①[相手局番号/設定内容]表示
音量(0～32)やスケルチレベル(00～64)を表示します。
※設定により、通話チャンネル番号、個別(相手局)番号を表示します。
※通話チャンネル番号表示の代わりとして設定されている漢字(例：防災01)やアルファベットを表示します。
また、呼び出し「個別番号(個別)/基地局番号(基地)/全体呼び出し(全体)」の選択状態を表示します。

②[CH]表示
通話チャンネルが漢字やアルファベット表示(①の部分)に設定されているとき表示します。

③ (ベル)
個別呼び出し(着信)を受けたとき点滅します。
ポケットビープ機能(☞P12)が設定されているとき表示します。

④ (Pベル機能)
「ON」(☞P19)に設定したとき表示します。

⑤ / / (送信出力)
各通話チャンネルの送信出力設定(High/Low/受信専用)を表示します。

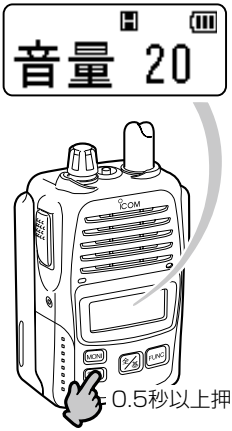
⑥ (コンパンダ機能)
設定されているとき表示します。

⑦ (ロック機能)
「ON」に設定(☞P15)したとき表示します。

⑧ (電池残量)
4段階で表示します。(☞P25)

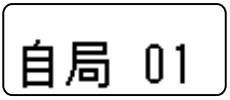
1 電源を入れる

[電源]スイッチを長く(0.5秒以上)押します。
もう一度、**[電源]**スイッチを長く押すと、電源が切れます。



電源を入れると、ビープ音が**「ピー」**と鳴って、音量レベル(表示例:音量 20)を表示します。

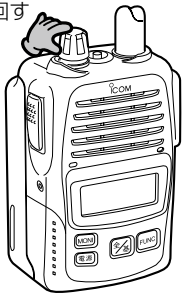
※個別呼び出し機能が設定されている場合は、自局番号を表示(約1秒)します。



例:自局番号表示

2 音量を調整する

相手局の音声が大きすぎたり、小さすぎたりするときは、「音量」を表示した状態で、**[ツマミ]**を回して聞きやすい音量に調整します。



モニター機能が設定されている場合、何も音が出ていない状態での調整は、**[MONI]**スイッチを押して**「ザー」**という雑音を出してから、この音を聞いて調整します。
調整後は、再度、**[MONI]**スイッチを押します。

3 相手局を選択する

個別呼び出し機能で**相手局を呼び出す**ときは、あらかじめ**[通話チャンネル番号]と[個別(相手局)番号]を選択**します。

Step1.通話チャンネル番号の選択

通話チャンネル番号とは、交信する周波数のことです。
交信する全局は、同一チャンネルに設定します。

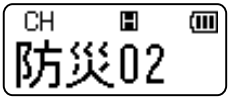
▶「音量」表示から選択する場合

① **[FUNC]**スイッチを短く押します。

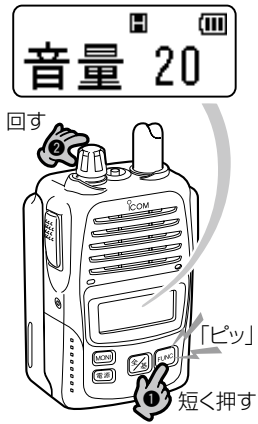
[通話チャンネル番号]表示

② **[ツマミ]**を回します。

2チャンネルを選択時



例:漢字表示



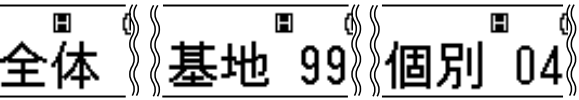
※操作の途中で、5秒以上何もしない状態がつづくと、音量表示に戻ります。
戻ったときは、はじめから操作をしてください。

3 相手局を選択する(つづき)

Step1.通話チャンネル番号の選択(つづき)

▶「全体」/「基地」/「個別」表示から選択する場合

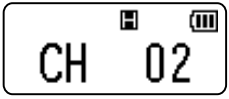
下記の表示(☞P9)から通話チャンネル番号を選択する操作です。



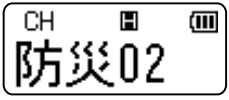
① **[FUNC]**スイッチを短く2回つづけて押します。

[通話チャンネル番号]表示

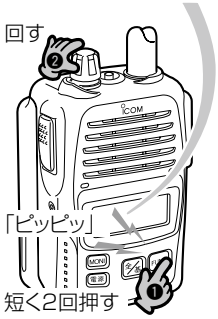
② **[ツマミ]**を回します。



2チャンネルを選択時



例:漢字表示



※操作の途中で、音量表示に戻ったときは、本書7ページの手順で操作してください。

3 相手局を選択する(つづき)

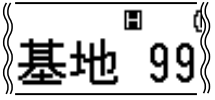
Step2.「全体」/「基地局番号」/「個別番号」表示の選択

〈相手局番号の表示について〉

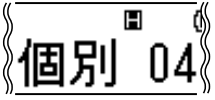
次の5種類があり、呼び出す相手を指定(個別呼び出し機能を使用)するときの番号を表示します。

全体呼び出し(全体)→→→→→→→→
一斉に全局を呼び出す。

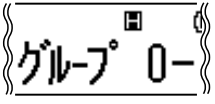
基地局呼び出し
(出荷時の設定:基地 99)→→→→→
「00」~「99」のうち基地局に指定された1局を呼び出す。



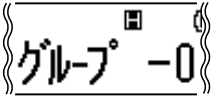
個別呼び出し
(出荷時の設定:個別 00~10)→→→
「00」~「99」のうち選択された1局を呼び出す。



グループ呼び出し
(グループ 0ー~9ー/ ー0~ ー9)→
グループに所属する局を一斉に呼び出す。



「グループ 0ー」~「グループ 9ー」の表示は、最大10局が1グループです。
(0ー:00~09の10局)
(9ー:90~99の10局)



「グループ ー0」~「グループ ー9」の表示は、最大100局が1グループです。
(ー0:000~099の100局)
(ー9:900~999の100局)

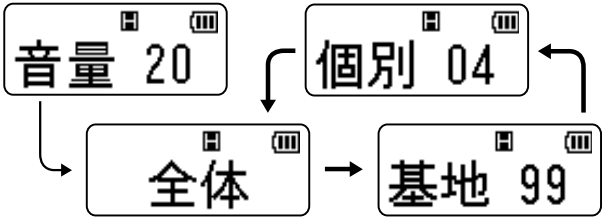
3 相手局を選択する(つづき)

Step2.「全体」/「基地局番号」/「個別番号」表示の選択(つづき)

[全/基]スイッチを短く押すごとに、**[全体呼び出し(全体)]→[基地局呼び出し]→[個別(グループ)呼び出し]**の順番に切り替わります。

※「全体」/「基地局番号」表示を選択したときは、「4 呼び出しをする」(☞P11)の操作に進みます。

〈表示の流れ〉

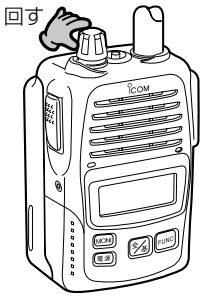


Step3. [個別番号]の選択

[ツマミ]を回します。

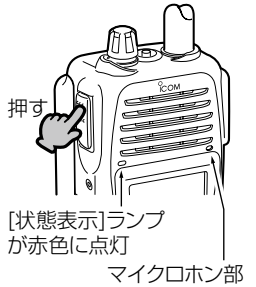
※「全体」/「基地局番号」表示の状態(☞Step2.)でも、**[ツマミ]**を回すと個別番号が選択できます。

※5秒以上何も操作しない状態がつづいたり、**[FUNC]**スイッチを短く押したりしたときは、音量表示に戻ります。



4 呼び出しをする

[PTT(送信)]スイッチを押すと、[状態表示]ランプが赤色に点灯します。
[PTT(送信)]スイッチを押しながら、マイクロホン部に向かって
『**こちらは××局です。**
○○さんどうぞ。』
と呼びかけたら、**[PTT(送信)]**スイッチをはなします。



【ご参考に】
[PTT(送信)]スイッチを押したとき、**「ピピッ」**という音が鳴るときは、個別呼び出し機能、またはデジタルトーンスケルチ機能が設定されています。
「ピッ」という音が鳴るときは、個別呼び出し機能が設定されていない無線機です。

■ アンサーバック機能

(※37CTMの「3桁設定(呼出コード)」以外に該当)

個別呼び出し機能が設定された無線機は、アンサーバック機能が設定されていると、相手局が通信圏内にあるかどうかを確認できます。
確認するときは、信号を受信していない状態で**[PTT(送信)]**スイッチを短く押します。
相手局が通話圏内の場合、ビープ音が1回だけ**「ピッ」**([状態表示]ランプが緑色で1回点灯)と鳴ります。

5 呼び出しを受ける

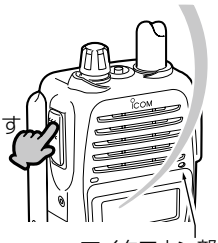
個別呼び出しを受けたときだけ、🔔(ベル)表示と相手局の個別番号が点滅します。

[PTT(送信)]スイッチを押しながら、マイクロホン部に向かって
『**こちらは○○局です。**
××さんどうぞ。』
と応答します。

相手局の番号を表示

[PTT(送信)]、または**[全/基]**スイッチを押すと、点滅が停止して**[ツマミ]**を操作できます。

※「通話 - -」表示は、全体/グループ呼び出しを意味します。
また、互いの無線機(CTM仕様)の呼び出しコードの設定が「3桁設定」、または互いの無線機(MFT仕様)にアンサーバック機能(☞P11)が設定されていないときも同じ表示です。



マイクロホン部

■ ポケットビープ

🔔(ベル)が表示されている無線機で動作します。
呼び出しを受けたとき、ビープ音でお知らせする機能です。
[電源]以外のスイッチを操作すると、停止できます。
※相手局から**[全体呼び出し(全体)]**、または**[グループ呼び出し]**を受けたときは、鳴りません。

■ 着信表示

「着信表示」が設定されていると、個別呼び出しを受けたときだけ、[状態表示]ランプを橙色に点滅します。
[MONI]または**[全/基]**スイッチを押すと、点滅を停止できます。

6 交信する

相手局から呼び出しを受けた状態(☞P12)から、送信と受信を交互に繰り返すと、交信できます。

※双方同時に送信しても、交信できません。

※送信の終わりに『どうぞ』と言葉を添えると、スムーズに交信できます。

交信中は、「通話」表示を点滅します。

再度、相手局を呼び出すときは、呼び出しをする前の表示に戻ってから**[PTT(送信)]**スイッチを押します。

※交信(通話表示点滅)中に**[FUNC]**スイッチを押すと、音量を変更できます。

個別呼び出しで交信中

■ 正しい通話方法

次の要領で通話をしてください。
用件は簡潔に話し、長い通話はさけてください。

【呼び出しをするとき】		【応答をするとき】
「相手局の呼び出し名称」	:3回以下	3回以下
「こちらは」	:1回	1回
「自局の呼び出し名称」	:3回以下	1回
「どうぞ」	:1回	1回

■ 交信時のアドバイス

1.マイクロホンの使いかた

◎マイクロホンに向かって話すときは、マイクロホンと口元を約5cmはなし、普通に会話する大きさの声で通話してください。マイクロホンを口元に近づけすぎたり、大きな声を出したりすると、めいりょう度が悪くなることがありますのでご注意ください。

◎ **[PTT(送信)]**スイッチを押すと、**「ピッ」**、または**「ピピッ」**という音が鳴ります。
そのあとマイクロホンに向かって話してください。

2.個別呼び出しについて

個別呼び出しをするときは、[通話チャンネル番号]と[個別番号]を相手局と同じにしないと個別呼び出しできません。

3.相手局から応答がないときは

相手が無線機からはなれていたり、電波を受信できない場所に移動したりしたなどの理由で応答がないときは、相手局番号の点滅表示が消えてから、**[PTT(送信)]**スイッチを押しなおすと、何回でも基地局、または個別呼び出しができます。

個別呼び出しをしたとき

4.交信する場所について

周囲の状況(天候、山や建物などの障害物)により、受信しにくくなることがあります。
そのときは、場所を少し移動して交信してください。
また、テレビやラジオなどの家電製品や、パソコンおよび電話機などの近くで使用すると、雑音が発生したり、誤動作したりすることがありますので、はなれてご使用ください。

4 そのほかの機能について

■ ロック機能

不用意に[全/基]スイッチや[FUNC]スイッチ、[ツマミ]に触れても、個別番号や表示が変わらないようにする機能です。
それ以外のスイッチやボタンは、操作できます。
[FUNC]スイッチを長く押すと**「ピッピピッ」**と鳴って、 を表示します。
同じ操作をすると、ロック機能を解除できます。

■ 緊急呼び出し機能(エマージェンシー)

災害発生時など、迅速な操作で確実な連絡が必要な場合、あらかじめ設定された相手に警告音でお知らせします。
※個別呼び出し機能と緊急呼び出し機能の両方が送信側と受信側に設定されていない無線機は、相手局を呼び出しできません。
※あらかじめ設定されたIDと一致する相手局にだけ、緊急呼び出しします。
※緊急呼び出しやその呼び出しを受けているあいだは、**[MONI]**スイッチ以外は操作できません。
※下記のような環境や本製品の設定状況では、通知できなかったり、通知できても警告音が鳴らなかったりする場合があります。
◎警告音が音量調整と連動して変化する場合
◎警告音を鳴らさない設定がされている場合
◎動作中、電池の消耗により自動的に電源が切れた場合
◎電波状況の悪化により電波が届かない場合

⚠警告

緊急呼び出し機能(エマージェンシー)は、大きな音量の警告音が連続で鳴ります。
また、警告音が音量調整と連動しない設定でお買い上げの場合、最大音量で警告音が鳴ります。
ヘッドセットやイヤホンで使用する場合は、耳に障害を与える原因になりますので、事前に確認してから運用してください。

【呼び出しのしかた】

下記の操作をする前に、相手と同じ[通話チャンネル]が選択(☞P7～P8)されていることを確認してください。

①**〈緊急呼び出し〉**ボタンを長く(数秒以上)押します。
- 警告音が**「ピピピ･･･」**と鳴って、一定の間隔ごとに[状態表示]ランプが赤色に点灯します。
  また、「緊急」表示が点滅します。

②その状態で、相手局から応答があるのを待ちます。
- 応答があると、警告音が停止して、[状態表示]ランプが緑色に点灯します。

③交信をつづけます。
- 終話すると、「緊急」表示の点滅を停止し、緊急呼び出し前の状態に戻ります。

【呼び出しを受けたときは】

①警告音が**「ピピピ･･･」**と鳴って、[状態表示]ランプが赤色に点滅します。
また、「緊急(相手局番号)」表示が点滅します。

②**[PTT(送信)]**スイッチを押して、応答します。
- 警告音が停止します。

③交信をつづけます。
- 終話すると、「緊急(相手局番号)」表示の点滅を停止し、緊急呼び出しを受ける前の状態に戻ります。

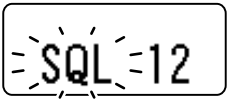
5 セットモードについて

お好みの運用状況に応じて、次の設定項目を[セットモード]から変更できます。

❶スケルチレベル(☞P18)
❷自局番号(☞P18)
❸基地局番号(☞P18)
❹Pベル機能(☞P19)
❺ビープ(ブザー)音量(☞P19)

■ [セットモード]に移行するには

① **[電源]**スイッチを長く押して、本製品の電源を切ります。
② **[FUNC]**スイッチを押しながら、ビープ音が**「ピッ」**と鳴るまで**[電源]**スイッチを押します。
③ 押している**[FUNC]**スイッチから指をはなして、**[FUNC]**スイッチを短く押しなおします。
- ビープ音が**「ピピッ」**と鳴って、右のように設定項目の略称を点滅表示します。



セットモードへ移行時

④ 項目の選択は、**[全/基]ス**イッチを短く押すごとに、「スケルチレベル」→「自局番号★1.」→「基地局番号★1.」→「Pベル機能★1.」→「ビープ(ブザー)音量★2.」の順に切り替わります。
★1.お買い上げ時、個別呼び出し機能が設定された無線機で表示される項目です。
★2.お買い上げ時、無線機を操作したときのビープ音量が、音量調整(☞P6)に連動しない設定の無線機で表示される項目です。
⑤ 設定内容の変更は、**[ツマミ]**を回します。
⑥ 設定が終わったら、**[電源]**スイッチを押して電源を切ります。
- 設定内容を反映して、[セットモード]を解除します。

※ [セットモード]が解除されるまで、送信や受信ができませんので、設定後は電源を入れなおして運用できることを確認してください。

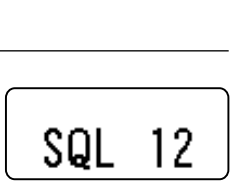
■ 設定項目[❶〜❺]について

❶ スケルチレベルの設定

受信する相手局の信号レベルの強弱に応じて、スケルチレベルを設定します。

- 選択範囲：00(浅い)〜64(深い)

※ **[MONI]**スイッチを押すと、出荷時のスケルチレベルに戻ります。



【ご参考に】

スケルチレベルは、検出電圧のわずかな違いが表示に反映されるため、同じ機種の場合でも個体差により出荷時の値が異なります。

❷ 自局番号の設定(出荷時の設定：01)

ここで設定する番号で個別呼び出しを受けると着信します。

- 選択範囲：00〜99

❸ 基地局番号の設定(出荷時の設定：99)

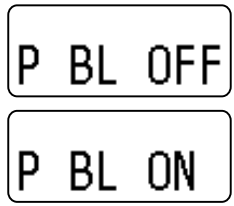
基地局の個別番号を設定します。
基地局呼び出しに使用します。

- 選択範囲：00〜99

■ 設定項目[❶～❺]について(つづき)

❹ Pベル機能の設定(出荷時の設定:OFF)

Pベル機能を設定します。
Pベル機能を使用すると、呼び出し(全体/個別/グループ)を受けたとき、応答するまで相手の音声をミュート(聞こえないように)します。

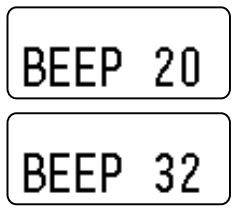


- ON :応答するまで相手の音声をミュートする
  ※ 無線機の表示部には、Pを表示します。
  ※ お買い上げ時、ブザー出力が「ON」に設定されている無線機は、音声のミュートと同時に、呼び出しを受けたことをブザー(ピー音、3回)でお知らせします。
  ポケットビープ(☞P12)が設定されている無線機は、このブザーのあと、つづけて鳴ります。
  また、ブザー出力が「OFF」に設定されている無線機は、ポケットビープも鳴りません。
- OFF :着信と同時に、相手の音声が聞こえる

❺ ビープ(ブザー)音量の設定(出荷時の設定:20)

受信音量調整(☞P6)と連動しないように設定された無線機だけに表示される設定項目で、Pベルのブザー、ポケットビープ(☞P12)、無線機を操作したときのビープについて、音量を設定します。

- 選択範囲:00～32



■ 別売品についてのご注意

弊社製別売品は、本製品の性能を十分に発揮できるように設計されていますので、必ず弊社指定の別売品をお使いください。
弊社指定以外の別売品とのご使用が原因で生じる無線機の破損、故障あるいは動作や性能については、保証対象外とさせていただきますので、あらかじめご了承ください。

■ 別売品一覧表

※[★]印のものは、無線機本体に装着することで、IP57相当の防水性能に適合します。

バッテリー関係

BP-220N★ :リチウムイオンバッテリーパックL
BP-246★ :リチウムイオンバッテリーパックM
BP-274★ :リチウムイオンバッテリーパックM
BP-221 :アルカリ電池ケース(単3形アルカリ電池×5本)

充電する

BC-161 #02:卓上急速充電器
※電源には、別売品のBC-165が必要です。
BC-165 :ACアダプター(BC-161 #02用の電源)
BC-121NA :6連急速充電器
※電源には、別売品のBC-157S/OPC-656が必要です。
BC-157S :ACアダプター(BC-121NA用の電源)
OPC-656 :DC電源ケーブル(BC-121NA用)

スピーカー関係

EH-11 :イヤーパッド型スピーカー(プラグ:2.5φ)
※34ページと併せてご覧ください。
EH-12 :ヘルメット取り付け型スピーカー(プラグ:2.5φ)
※HS-86、HS-92、HM-104、HM-104A、HM-109、HM-163のいずれかでお使いになれます。

■ 別売品一覧表(つづき)

イヤホン関係

EH-13 :耳かけ型イヤホン(プラグ:2.5φ)
※HS-86、HS-92、HM-104、HM-104A、HM-109、HM-163のいずれかでお使いになれます。

EH-14 :オープンエアー型イヤホン(プラグ:2.5φ)
※HS-86、HS-92、HM-104、HM-104A、HM-109、HM-163のいずれかでお使いになれます。

EH-15 :イヤホン(プラグ:2.5φ)
※EH-15B(黒色)
※HS-86、HS-92、HM-104、HM-104A、HM-109、HM-163のいずれかでお使いになれます。

SP-16 :耳かけ型イヤホン(プラグ:3.5φ)
※SP-16B(黒色)/SP-16BW(黒色/ロングケーブル)
※AD-52、HM-186SJのいずれかでお使いになれます。

SP-28 :耳かけ型イヤホン(プラグ:2.5φ)
※HM-109、HM-163のいずれかでお使いになれます。

SP-29 :耳かけ型イヤホン(プラグ:3.5φ)
※SP-29L(L型プラグ:3.5φ)
※AD-52、HM-186SJのいずれかでお使いになれます。

SP-31 :耳かけ型イヤホン(HM-159SJ専用)

SP-32 :チューブ式イヤホンアダプター
※EH-15、EH-15B、SP-16、SP-16B、SP-16BWのいずれかでお使いになれます。

スピーカーマイク関係

HM-159SJ★:防水形スピーカーマイク
※MB-122、SP-31を組み合わせてもお使いになれます。
※ご使用になるには、外部電源制御の設定をお買い上げの販売店にご依頼ください。

HM-172★ :防水形スピーカーマイク
※ご使用になるには、外部電源制御の設定をお買い上げの販売店にご依頼ください。

HM-183SJ★:防水形スピーカーマイク

HM-186SJ :小型スピーカーマイクロホン
※SP-16、SP-16B、SP-16BW、SP-29、SP-29Lのいずれかと組み合わせてもお使いになれます。

マイクロホン/ヘッドセット関係

HM-104 :単一指向性タイピン型マイクロホン
※HM-104A(無指向性タイピン型マイクロホン)
※EH-12、EH-13、EH-14、EH-15のいずれか、およびOPC-636、OPC-637のいずれかでお使いになれます。

HM-109 :接話タイピン型マイクロホン
※HM-163(HM-109のコネクター部分だけが防水構造)
※32ページと併せてご覧ください。

HM-147 :骨伝導マイク(TEMCO製)
※ご使用になるには、外部電源制御の設定をお買い上げの販売店にご依頼ください。

HM-177SJ :イヤホンマイクロホン

HS-86 :ヘルメット取り付け型ヘッドセット
※34ページと併せてご覧ください。

HS-88 :ヘッドセット
※OPC-636、OPC-637のいずれかでお使いになれます。

HS-92 :ヘルメット取り付け型ヘッドセット(ワニ口で固定)
※34ページと併せてご覧ください。

OPC-636 :マイクスイッチ内蔵型接続ケーブル(ロック仕様)
※33ページと併せてご覧ください。

OPC-637 :マイクスイッチ内蔵型接続ケーブル(ノンロック仕様)
※33ページと併せてご覧ください。

変換アダプター/アンテナ

AD-52 :イヤホンジャックアダプター(ジャック:3.5φ)
※32ページと併せてご覧ください。

FA-S73U :防水形短縮アンテナ(IC-UH37CTM専用)

無線機を保護する

LC-153 :ハードケースS(BP-246/BP-274用)

LC-154 :ハードケースL(BP-220N/BP-221用)

LC-164 :ハードケースS(BP-246用)
※装着した状態でスイッチ操作と充電(BC-161 #02を使用時)ができます。

LC-166 :ハードケースL(BP-220N/BP-221用)
※装着した状態でスイッチ操作と充電(BC-161 #02を使用時)ができます。

■ 別売品一覧表(つづき)

腰　に　か　け　る

MB-97 :ベルトクリップ(ステンレス製)
MB-98 :ベルトクリップ
MB-86 :回転式ベルトクリップ
MB-122:ベルトクリップ(ステンレス製:HM-159SJ専用)

肩　に　か　け　る

MB-57L:ショルダーストラップ
※LC-153、LC-154、LC-164、LC-166のいずれかでお使いになれます。
MB-80 :ショルダーストラップ(BP-220N/BP-221/BP-246用)
※LC-153、LC-154、LC-164、LC-166のいずれかでお使いになれます。

■ アルカリ電池ケース使用時の運用時間(別売品)

名　称			BP-221
運用時間	送信出力	1W機	約6時間
		5W機	約1時間
	【条件】送信5、受信5、待ち受け90の割合で繰り返し運用		

※アルカリ電池ケースは、防水構造ではありません。
※使用条件やアルカリ電池の種類(製造元など)により、使用時間が大きく異なることがあります。
また、アルカリ電池の特性により、低温では使用時間が短くなります。

■ 安全な充電のために

⚠危険

◎充電するときは、必ず指定の充電器をご使用ください。
◎指定(BP-220N/BP-246/BP-274)以外のバッテリーパックは、絶対に充電しないでください。
◎「安全上のご注意」(☞Px～Pxviii)を併せてお読みになり、安全な方法で充電してください。

■ バッテリーパックの名称と定格について(別売品)

名称 / 定格項目		BP-220N	BP-246	BP-274
種類		リチウムイオン		
容量	(min.)	2660mAh	1850mAh	1800mAh
	(typ.)	2800mAh	1950mAh	1900mAh
出力電圧		7.4V		
寸法 (幅×高さ×奥行)		56×91×21.9	56×91×15.2	56×91×14.0
		【条件】突起物は、含まず /【単位】mm		
運用時間	1W 機	約 24 時間	約 14 時間	
	5W 機	約 16 時間	約 9 時間	
	【条件】送信 5、受信 5、待ち受け 90 の割合で、繰り返し運用			
充電時間		約 4 時間	約 2.5 時間	
		【条件】別売品の BC-161 #02、BC-121NA を使用時		

※バッテリーパックを装着することで、無線機本体の防水性能に適合します。
※バッテリーパックに異常があると思われたときは、使用を中止して、お買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

■ 電池の残量表示について

表示は、バッテリーパック、およびアルカリ電池ケースの残量に応じて変化します。

※交換時期になりましたら、バッテリーパックの場合は充電し、アルカリ電池ケースの場合は、新しいアルカリ電池と交換してください。

表示	電 池 の 状 態
	十分に容量があります。
	電池を交換する時期です。(短時間の運用は可能)
	すぐに使えなくなりますので、電池の交換が必要です。
点滅	ほとんど容量がなく、点滅と残量警告音が鳴ります。

■ 電池の残量警告音について

電池の残量表示が 点滅 になると、残量警告音が**「ピーピーピー」**と、約30秒ごとに鳴ります。

残量警告音が鳴り出したら、すぐに新しいアルカリ電池(アルカリ電池ケースの場合)と交換してください。

また、バッテリーパックの場合は、充電してください。

※電池の残量表示が 点滅 の状態でご使用をつづけられますと、残量警告音が**「ピーピピピ･･･」**と鳴り、5秒後に無線機の電源が自動的に切れます。

■ 正しい充電のために

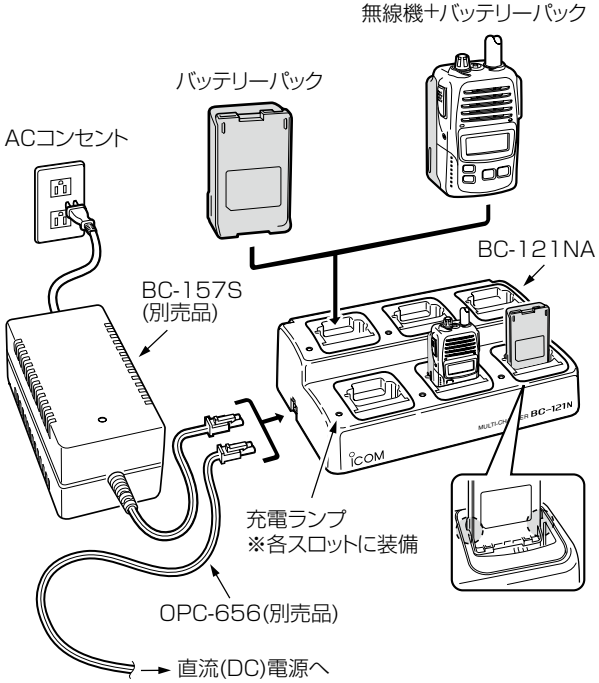
バッテリーパックを無線機本体に装着した状態で充電するときは、必ず無線機の電源を切ってください。
電源を切らない場合、充電が完了しません。

◎お買い上げいただいたときや、約2ヵ月以上充電しなかったときは必ず充電してください。
◎バッテリーパックは、使い切らずに継ぎ足し充電ができますので、常に満充電にしてご使用ください。
なお、満充電した直後に再充電しないでください。
◎満充電、または完全に使い切った状態で長期間放置すると、バッテリーパックの寿命が短くなるおそれがあります。
長期間バッテリーパックを保管する場合は、満充電のあと、残量表示が の状態になるまで使用し、無線機から取りはずした状態で保管してください。
◎極端に高温、または低温の環境下や、バッテリーパックと充電器の温度差が大きい場合、充電できないことがあります。
充電器は、次の環境でご使用ください。
BC-161 #02(卓上急速充電器) :0～40℃
BC-121NA(6連急速充電器) :10～40℃
◎バッテリーパックは消耗品ですから、充電を繰り返すと運用時時間が少しずつ短くなります。
運用時間が極端に短くなったときは寿命ですので、新しいバッテリーパックをご購入ください。
◎充電口や充電端子各部にゴミやホコリが付着すると、正常に充電できないことがありますので、乾いた布などで定期的にお手入れをしてください。

■ BC-121NA(6連急速充電器):充電のしかた

バッテリーパックを単体、または無線機に装着した状態で急速充電できます。

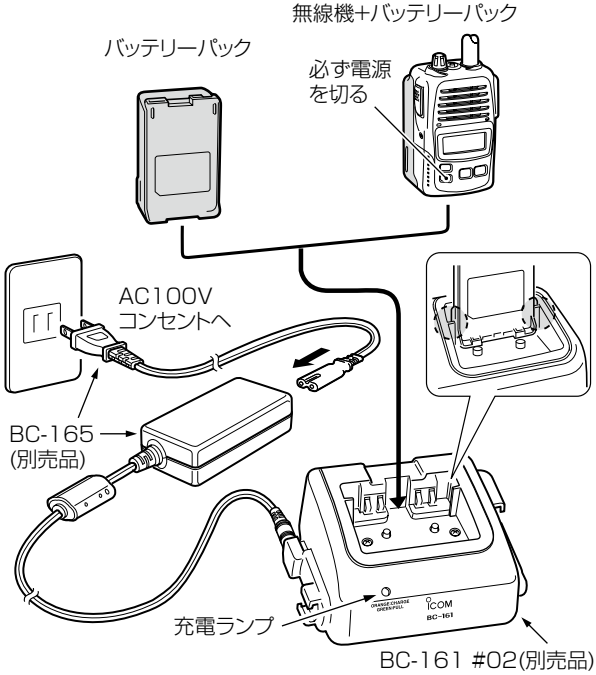
充電ランプは、充電中に橙色、充電完了で緑色に点灯します。
※赤色で点滅する場合は、39ページをご参照ください。
※BC-121NAに付属の取扱説明書と併せてご覧ください。



■ BC-161 #02(卓上急速充電器):充電のしかた

バッテリーパックを単体、または無線機に装着した状態で急速充電できます。

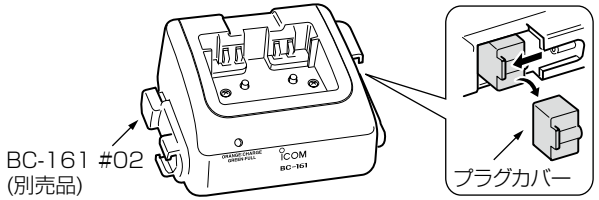
充電ランプは、充電中に橙色、充電完了で緑色に点灯します。
※赤色で点滅する場合は、39ページをご参照ください。
※BC-161 #02の電源には、必ずBC-165をご使用ください。



■ BC-161 #02の連結充電について

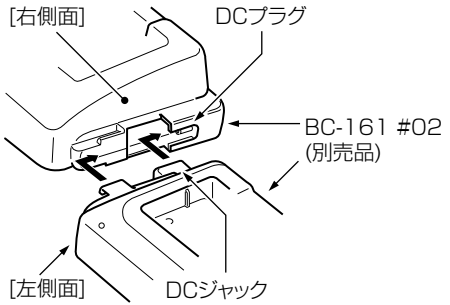
充電器を最大4台まで連結して、同時に充電できます。

① 充電器の右側面に差し込まれているDCプラグカバーを図の方向に取りはずします。



② 右側面にあるDCプラグと、もう1台のBC-161 #02(左側面)にあるDCジャックを**「カチッ」**と音がするまで差し込みます。

(手順③☞次ページへ)

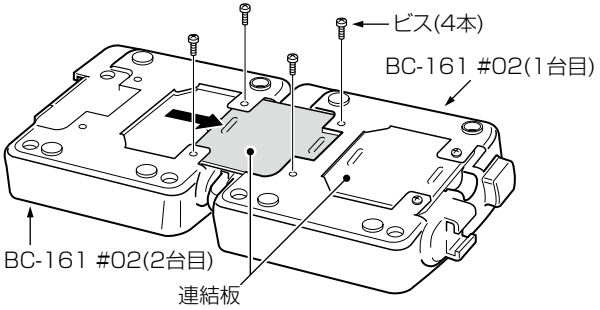


⚠警告

BC-161 #02を連結して充電できるのは、最大4台までです。5台以上を連結して充電しないでください。

火災、発熱、感電、けが、故障の原因になります。

③ 底面部(2台目の充電器)にある連結板を固定するビス(2本)を取りはずして、連結板を1台目の充電器のほうに移動させます。
取りはずしたビス(2本)と充電器に付属のビス(2本)で連結板を固定します。



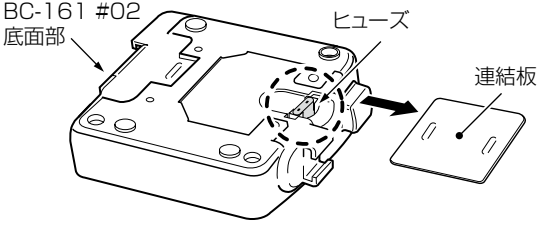
■ BC-161 #02の定格について(別売品)

- **名　　称:**BC-161 #02卓上急速充電器(AD-115付属)
- **定格入力電圧:**AC100V(50/60Hz) ※BC-165入力電圧
- **使用温度範囲:**0～40℃
- **重　　量:**約225g
- **寸　　法:**122.5(W)×59.7(H)×95.0(D)mm

※定格・仕様・外観等は、改良のため予告なく変更する場合があります。
※BC-121NAについては、BC-121NAに付属の取扱説明書をご覧ください。

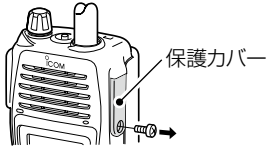
■ BC-161 #02のヒューズ交換について

ヒューズが切れ、充電ランプが点灯しないときは、原因を取り除いてから、下記のヒューズ(4A/32V)を取り替えてください。



■ 別売品を接続するには

端子保護のため、必要がないときは、保護カバーを取り付けてご使用ください。

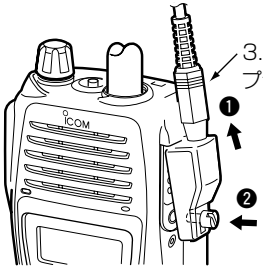


①市販のドライバーを用意します。
②無線機の側面側にある保護カバー固定用のビス(1本)をはずします。
③保護カバーをはずします。

■ AD-52(イヤホンジャックアダプター)

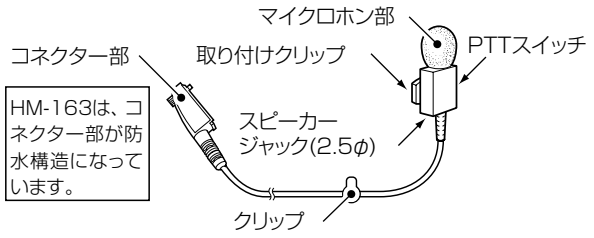
SP-16、SP-16B、SP-16BW、SP-29、SP-29Lのいずれかでお使いになれます。

※装着しても、イヤホンプラグが接続されるまでは、無線機内蔵のスピーカーが機能します。



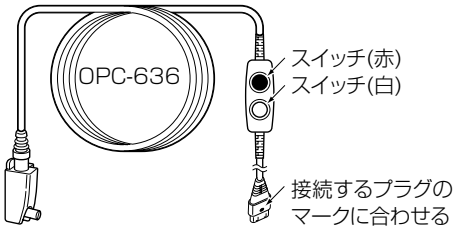
■ HM-109/HM-163(接話タイピン型マイクロホン)

EH-12、EH-13、EH-14、EH-15、EH-15B、SP-28のいずれかでお使いになれます。



■ OPC-636/OPC-637
(マイクスイッチ内蔵型接続ケーブル)

HS-86、HS-88、HS-92、HM-104、HM-104Aのいずれかでお使いになれます。



〈OPC-636の場合〉

赤色のスイッチは、ノンロック(未固定)式です。

※白色のスイッチが出ている(出)とき使用できます。

- ●▬ :押しているあいだだけ送話する
- ●▙ :はなすと送話を中断する

白色のスイッチは、ロック(固定)式です。

※赤色のスイッチは、白色のスイッチが押し込まれていると無効です。

- ●▬ :押し込む(入)と送話する
- ●▙ :出ている(出)と送話を一時中断する

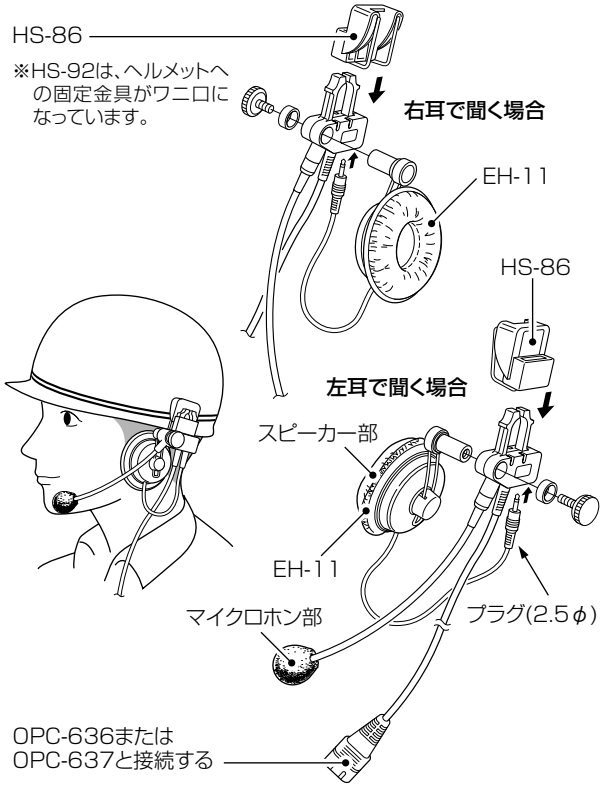
〈OPC-637の場合〉

黒色のスイッチは、ノンロック(未固定)式です。

- ●▬ :押しているあいだだけ送話する
- ●▙ :はなすと送話を中断する

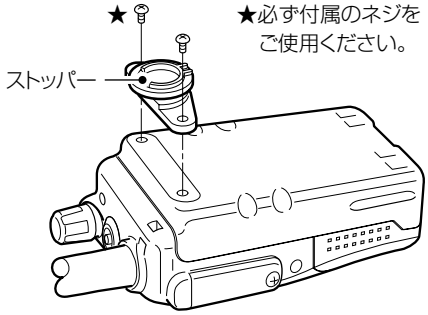
■ HS-86/HS-92(ヘルメット取り付け型ヘッドセット)とEH-11(イヤーパッド型スピーカー)の組み立て

EH-11、EH-12、EH-13、EH-14、EH-15、EH-15B、およびOPC-636、OPC-637のいずれかでお使いになれます。

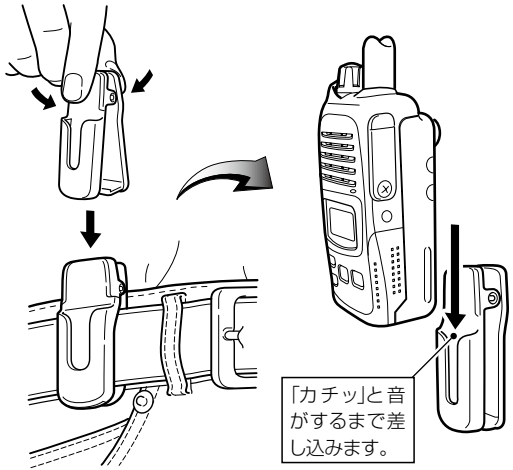


■ MB-86(回転式ベルトクリップ)

〈組み立てかた〉

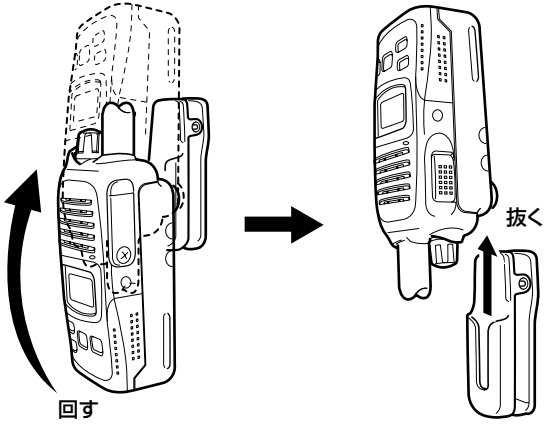


〈無線機の取り付けかた〉

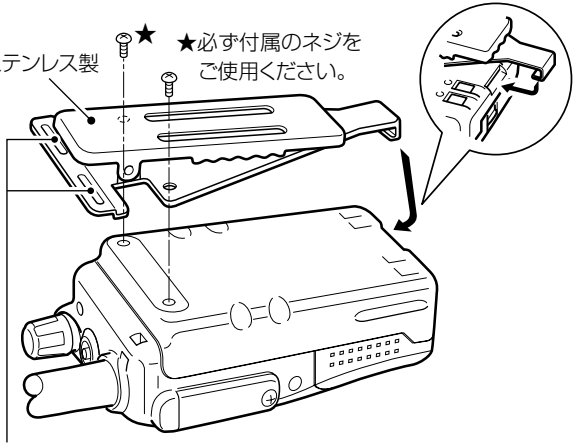


〈無線機のはずしかた〉
ベルトクリップから無線機をはずすときは、無線機を回転させてから引き抜きます。

【ストッパーの破損に注意】
落下など、強い衝撃が加わってストッパー部分を破損すると、ベルトクリップが正常に機能しないおそれがあります。



■ MB-97(ベルトクリップ)



MB-57L(ショルダーストラップ)やMB-80のストラップ部を取り付けできます。

⚠注意

腰などに固定するときは、指を挟まないようご注意ください。

■ 日常の保守と点検について

◎ふだんは乾いたやわらかい布でふき、汚れのひどいときは、水を含ませたやわらかい布をかたく絞ってふいてください。
洗剤や有機溶剤(シンナーやベンジンなど)を絶対に使用しないでください。
また、バッテリーパック(BP-220N/BP-246/BP-274)やアルカリ電池ケース(BP-221)を取りはずした状態では、乾いたやわらかい布でふいてください。

◎無線機本体、充電器(BC-161 #02、BC-121NA)、バッテリーパック、アルカリ電池ケースの各端子(充電端子や電源端子)にゴミやホコリが付着すると、接触不良が原因で正常に動作しないことがあります。
各端子は、乾いた布などで定期的にお手入れしてください。

◎使用される前に、電池の容量が十分残っているか、表示部の残量表示(☞P25)を確認してください。
また、アルカリ電池ケース、またはバッテリーパックなどがしっかりと装着されているか点検してください。

◎定期的に決まった位置の相手局と交信して、交信状態に変化がないかを調べてください。

◎音量が最小に調整されていないか、ツマミを回して、表示部の音量レベル(☞P6)を確認してください。

■ 故障かな？と思ったら

下記のような現象は、故障ではありませんので、修理を依頼される前にもう一度お調べください。

〈現　象〉表示部の表示が変化しない

〈原　因〉ロック機能が動作している

処置：ロック機能を解除する(☞P15)

〈現　象〉充電中に充電器のランプが赤色点滅になる

〈原　因〉無線機の電源を入れた状態で充電している

処置：無線機の電源を切った状態で充電する

※現象が変化しない場合は、バッテリーパックの故障または寿命ですので、お買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

〈現　象〉充電が完了(充電器のランプが緑色に点灯)しない

〈原　因〉無線機の電源を入れた状態で充電している

処置：無線機の電源を切った状態で充電する

〈現 象〉[電源]スイッチを押しても電源が入らない

〈原因1〉電池をアルカリ電池ケース(BP-221)に入れるとき、極性を間違えている

処置:極性を確認して、アルカリ電池を入れなおす

〈原因2〉バッテリーパック(BP-220N/BP-246/BP-247)、またはアルカリ電池ケースの接触不良

処置:アルカリ電池ケースの電池端子、またはバッテリーパックの充電端子を清掃する

〈原因3〉バッテリーパック、またはアルカリ電池の消耗

処置:バッテリーパックの場合は充電し、アルカリ電池ケースの場合は新しいアルカリ電池と交換する

〈原因4〉バッテリーパックの場合、過放電保護回路が動作している

処置:無線機からバッテリーパックを取りはずし、少し充電したあとにバッテリーパックをもう一度装着してから電源を入れる

〈現 象〉スピーカーやイヤホンから音が聞こえない

〈原 因〉音量が最小に調整されている

処置:無線機本体の音量レベルを確認する(☞P6)

〈現 象〉交信できない(応答がない)

〈原因1〉相手局と距離がはなれすぎている

処置:場所を移動してから交信してみる

〈原因2〉相手局が不在、または電源を切っている

処置:相手局の状態を確認する

〈原因3〉相手局と通話チャンネルが合っていない

処置:相手局と同じにする、さらに個別呼び出し機能でご使用の場合は、相手局の個別番号を選択する

■ アフターサービスについて

「■ 故障かな？と思ったら」(☞P39、P40)にしたがって、もう一度、本製品の設定などを調べていただき、それでも異常があるときは、次の処置をしてください。

保証期間中は

お買い上げの販売店にお問い合わせください。

保証規定にしたがって修理させていただきますので、保証書を添えてご依頼ください。

保証期間後は

お買い上げの販売店にお問い合わせください。

修理することにより機能を維持できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

- **保証書について**

  保証書は販売店で所定事項(お買い上げ日、販売店名)を記入のうえお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

- **弊社製品のお問い合わせ先について**

  お買い上げいただきました弊社製品にご不明な点がございましたら、下記のサポートセンターにお問い合わせください。

  お問い合わせ先:アイコム株式会社　サポートセンター
  0120-156-313(フリーダイヤル)
  ◆ 携帯電話・PHS・公衆電話からのご利用は、
  06-6792-4949(通話料がかかります)
  受付(平日 9:00～17:00)
  電子メール:support_center@icom.co.jp
  アイコムホームページ:http://www.icom.co.jp/

- 弊社製品の故障診断、持ち込み修理などの修理受付窓口は、別紙の「サービス受付窓口一覧」、または弊社ホームページ http://www.icom.co.jp/ をご覧ください。

MEMO

高品質がテーマです。

A-6536SY-1J-⑥
Printed in Japan
© 2006–2012 Icom Inc.

この印刷物は環境にやさしい再生紙と
植物性インクを使用しています。

アイコム株式会社
547-0003 大阪市平野区加美南1-1-32